

山城

随想やましろ

寒い日が続く中、日差しが暖かさに、ほのかに春を感じるようになった。最近の和束町です。わが家のメインビジネスの農家民宿には、新たな助っ人が早春の風とともにやってきてくれました。ソーシャルリーダー育成・交流事業としてインドネシアのNPOから派遣されたダユ(Dayu)さん。写真右とブルハン(Burhan)さん。同左です。

彼らが私たちから学ぶこと以上に、私たちがたくさん学ばせていただいています。すてきなエピソードがあったので、一



プロジェクト 育子

夫が町内の高齢者の方に時々英語を教えているのですが、いい機会なので、彼らと一緒に参加してもらいました。高齢者の皆さんも熱心にインドネシアについて質問されたりして、とてもアクティブで楽しいクラスでした。

インドネシアからのインターン生



ある方からの「日本が好きということですが、



「仲よし」
(花水木の会 西村美鈴)

にいますので、やっぱりインドネシアに住みたいです」と答え、ブルハンさんは「僕も家族がインドネシアだし、貧困などのいろいろな問題を抱えている母国を良くするために母国で働きたい」と答え、私にはいい意味で衝撃でした。
私が20代の頃は(多分今も)、「国のために」という考えはほぼなかったし、家族から離れて

日本にずっと人暮らしがしたくてたまらなかつたので、彼らのか？」という意思の高さにノックアウトされた。他にも彼らの礼儀正しさや、お酒を飲まないことなど、感心することは多々あります。作ってくれた激辛のインドネシア料理とても、ますますインドネシアが好きになりました。和束町では茶農家さんやさまざまな方が国内外のインターンやボランティアを受け入れており、田舎でありながら多様性が存在しています。人口は減少していますが、交流人口の増加が町の活性化につながる可能性は大です。
(農家民宿「プロジック」オーナー)